

第89回

MARUICHI SUN STEEL JSC



●事業内容:

① 鋼板事業

メッキ(GL/GI)・カラー鋼板の生産・販売。用途は主に、屋根・壁などの建築用

② 鋼管事業

溶接鋼管製造・販売。用途は主に 配管・構造用鋼管

MARUICHI SUN STEELは、日本の企業である丸一鋼管、豊田通商、JFEスチールと台湾株主との合弁企業であり、主に鋼管と鋼板の製造を行っています。同社の製品は、建築鋼材、家具、工業製品などあらゆる業界で使用されており、ベトナム国内販売のみならず、タイ、インドネシアなどへの輸出も行っています。

今回は、そんなMARUICHI SUN STEELの社長に2017年4月に就任された酒井社長にお話をお伺いしました。

●設立の経緯を教えてください。

当社の前身は、台湾企業が1998年に設立した鋼管と鋼板の製造企業であるSun Steel社です。2006年に、当時小径パイプラインの他、鋼板のカラーラインとCGLラインが稼働しており、冷延ミル・酸洗ミルは据付が始まったばかりの状況であったが彼らは操業経験もなく、経営の継続が困難になり、丸一鋼管にSun Steel社が、出資先を求めているとの情報が届けられました。当時、丸一鋼管では、アジアでの新たな製造拠点展開を検討していたこともあり、ベトナムの今後の鋼管や鋼板に対する需要が拡大することは間違いないと考え、Sun Steel社への出資を行うことを決定しました。現在では、丸一鋼管が72.53%、豊田通商が9.27%、JFEスチールが8.0%、台湾株主が9%強の出資比率となっており、日系主体の合弁企業 MARUICHI SUN STEELとして、活動をしています。

本格的に日本品質の鋼管、鋼板の製造を行う為、2010年には、ベトナムで初めての16インチ造管ミル設備を導入し、大型鋼管の製造を開始しました。更に2013年には、新たなCGLラインとCCLラインを増設し、現在の製造規模に至りました。

また、2010年には、北部の二輪車、自動車向けの鋼管製造拠点として、MARUICHI SUN

STEELの100%出資によるMARUICHI SUN STEEL(Hanoi)を設立しました。

当社の親会社である丸一鋼管は、これまでも自動車産業の盛んな地域を中心に海外展開を行っており、アメリカ、インド、中国、インドネシア、メキシコに海外拠点を展開しています。

●業務内容を教えてください。

現在、当社では、鋼板事業と鋼管事業の大きく分けて2つの事業を展開しております。

原材料のホットコイルを輸入して、定められた規格の溶接パイプとCGL、CCLなどの設備によってメッキ・カラー鋼板を製造しています。鋼管は、ガス水道配管、建築用の構造間、バイク用パイプ、家具用パイプ、オイル&ガスパイプなど様々な用途で使用されており、パイプのサイズも15A~400Aまであり、お客様の需要に対応しています。

現在の生産量は、鋼板が月間約20,000トン、鋼管が月間約3,000トンとなっていますが、輸出比率が高いので、今後は、ベトナム国内での販売先を開拓し、国内販売比率を高めていきたいと考えています。弊社では日本品質の製品を製造する為に、日本と変わらない製造設備を導入しており、日本と同様の高品質製品を安定して供給できる体制を整えています。

<主要生産品目>

+ 鋼板

- ・溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯(JIS G3321, SUNCOAT55)
- ・塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯(JIS G3322, SUNCOLOR55)
- ・溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯(JIS G3302, SUNSCOZINC)

(板厚範囲) GL系: 0.2mm - 1.2mm
GI系: 0.3mm-3.2mm

(板幅範囲) 914mm/1200mm/1219mm
(他は応談)

+ 鋼管

- ・一般構造用 (JIS G3444 STK, JIS G 3466 STKR, ASTM A500, AS1163)
- ・機械構造用 (STKM, STKMR)
- ・配管用 (JIS G 3452 SGP, JIS G 3454 STPG, ASTM A53, BS1387)
- ・ラインパイプ (API 5L X42/X52)
- ・電線管 (BS31, BS4568)
- ・足場管 (JIS G 3444 STK)
- (外径範囲) Φ12.7~406.4mm, □11x11~300x300mm(400x200mm)
- (肉厚範囲) 0.6mm~12.7mm

ベトナム国内には、競合となる企業が外資系、ベトナム系含めて多く存在していますので、価格面、品質面での競争が非常に激しいのですが、その中で、当社の安定した高い品質によって国内シェアを高めていきたいと考えています。ベトナム国内も徐々に高品質な鋼材を求める需要が徐々に出てきており、ベトナムのお客様からも当社の製品を指定されることが増えてきていますので、今後更に国内での知名度を高めていきたいと考えています。

また、ベトナム国内での高品質な鋼管、鋼板の供給でお困りの企業様がございましたら、是非弊社に一度お問い合わせいただければと思います。安定的に購入いただける場合は、当社で在庫しながら販売することも可能ですので、少量からでも一度お問い合わせください。

ハノイの製造拠点は、主に二輪車向けの鋼管を製造しており、月間約1,000トンの各種鋼管を製造し、大手二輪車メーカー様向けに提供させて頂いています。

●ベトナム人スタッフへの評価は如何でしょうか？

現在の社員数は約460名で、その内日本人が13名、インド人が1名、台湾人が1名となっています。ハノイ工場は、スタッフが約100名でその内日本人が3名います。

当社の製品は、製造設備で製造される物ではありますが、最終的には人の質が製品の品質に大きな影響を与えていると考えています。極端に言えば、設備は、一度設定してボタンを押せば誰がやっても同じように稼働する訳ですが、最終的に製品の品質を判断するのは人の目であり、作業員の質は非常に重要です。日本人がしっかりとベトナム人社員に見方を教え、ベトナム人スタッフがそれをきちんと守ることが非常に重要です。

ベトナム人スタッフへの評価ですが、一部のスタッフは、責任感を持って仕事をしてくれていますが、自分の仕事の範囲内しか仕事を行わず、連携や責任感に欠けるスタッフも存在しています。その為、社員に対しては、仕事上の引継ぎや連絡の徹底などを指導するようにしています。

また、専門知識に関しても、基本的な部分から教育が必要な人も多く、ベトナム人社

員の育成は、非常に重要な課題だと考えています。

●離職率は如何でしょうか？

毎月平均して3人程度が退職していますので、年間で10%弱程度の離職率かと思われます。特に入社して2年以内の若手の離職が目立つように思います。ベテラン社員になると、比較的安定してきますが、能力の高いベテラン社員は、競合他社から引き抜きにあうこともあり、頭が痛いところです。勤続年数の長いスタッフを如何に継続して働いてもらえるかが大きな課題となっています。

●ベトナムで苦労されたことはありますか？

ベトナムへの日系企業の製造拠点設立では、一般的には100%独資で行われることが多いですが、当社の場合は、既存の台湾メーカーへ投資をする形でのベトナム進出でしたので、苦労もありました。

安定的に高品質の製品を製造した、ベトナムで日本品質の鋼管と鋼板を製造していく為に、新たに設備を導入したり、技術指導を行うといったことが必要でした。

他には、ベトナムで最も困る点として、ベトナム国内における規格が統一整備されていないという点があげられます。明確な規格が無いために、何でもありの状況になっており、価格のみが評価されるという状況は大きな課題問題だと思っています。

当社は、JIS規格を満たした製品を提供していますので、きちんとその意義を理解してもらって使用してもらえるようになるために、ローカル企業との関係をより強化して、当社の製品の価値を理解してもらえるように努力しています。

また、当社では、ベトナムの関連機関、大学などと連携を取りながら、ベトナムの鉄鋼分野の規格を策定する取り組みにも取り組んでいます。

●将来的にはどのような展開をお考えでしょうか？

ベトナムは、一人当たりの鉄鋼の消費量が日本に比べて30%程度しかなく、今後もベトナムの鉄鋼需要は増大すると考えています。これまでは、品質よりも価格が重視されてきましたが、ベトナムの経済成長に伴い、

今後はより高品質な製品に対する需要が拡大するとみられますので、日本の技術を生かした安定した高品質製品の存在を広くベトナム一般企業に認知してもらい、当社の製品を、ベトナムのインフラ、建築などの分野で広く活用して頂きたいと考えています。その為には、都市部のみならず郊外地域に対しても広く広報活動を展開していく予定です。

また、鋼管の場合は、足場仮設規格化(QCVN)の提案活動、JIS規格取得範囲の拡大、ハイテン鋼管の製造などに取り組んでいく予定です。

また、鋼板についても海外規格対応強化、PEB業者向け構造用ハイテンの生産、拡販に取り組んでいきたいと考えています。

ありがとうございました。

